



2023年度 活動報告(案)

樹木・環境 ネットワーク協会

もくじ

P4. トピックス

PII. 事業別報告

P22. 会員

P23. 役員・職員

P25. 財務報告

2023年度は、活動の量や種類が大きく広がってきた1年でした。環境教育活動や調査活動、企業の森づくり活動、地域づくり活動へと展開してきました。

社会を見渡しても、市民のレベルでも、企業のレベルでも、自然環境への関心、それに人と自然のかかわり方といったことに関心が高まっていると感じます。それは、年々ひどくなっていくように感じられる気候変動や、野生動物との衝突が身近になってきたことと無関係ではありません。活動の広がりも、こうした背景の結果なのでしょう。新たな課題が見えてくるなかで、私たちの活動をどう方向づけていくか、しっかりと見極めていく必要があります。

こうした変化に追われてきた1年でしたが、おかげ様で何とか無事乗り切ることができました。次のステップに向けて、引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
理事長 清水 善和

ミッション

人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚(しゅう、『集』の旧字体)」という愛称には、そんな思いが込められています。



活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。





- TOPICS 1 ミツバチ 養蜂開始@三輪里山
- TOPICS 2 緑地の生物調査
- TOPICS 3 子どもレンジャーがはじまります
- TOPICS 4 企業の森づくり
- TOPICS 5 まちだみどり活用ネットワーク

事業実績

	2022年度	2023年度
活動回数	40回	43回
参加者数	1,174名	1,395名
指導者数	95名	160名

※GS、会員、一般・外部講師含む

※環境コミュニケーション事業、グリーンセイバー事業に該当する活動





TOPICS | ミツバチの養蜂開始@三輪里山

里山林塾の活動として、町田三輪里山で養蜂がはじまりました。ミツバチが里山に増えることにより、里山にある草木の花の受粉を助け、生態系の豊かさに寄与することを目的としています。

23年度では、比較的導入が楽ということから、セイヨウミツバチでスタートしました。同時に町田市内の養蜂を行っている団体との交流により、ニホンミツバチの巣箱づくりを行い、ニホンミツバチの導入も試みています。

三輪里山ではピザ窯を活用した交流の場もあり、三輪産のはちみつを使ったピザなど、期待もふくらみます。



TOPICS 2 緑地の生物調査

自治体の所有する住宅地のなかの緑地5か所の生物調査（植物、昆虫、鳥、両生類・爬虫類・哺乳類）を実施しました。緑地の管理方針を検討するにあたり、現在どのような生物が生息・生育しているか、現状を把握するための調査です。自治体からの委託を受けた企業からの依頼で、生物調査の部分を当協会が担当しました。夏、秋、冬のうち、それぞれの生物の項目に適した季節に実施しました。

最近ほとんど人の手が手が入らなくなり、常緑樹林や竹林へと移り変わっていく緑地の様子が把握でき、それを報告書にとりまとめました。



TOPICS 3 海の森子供レンジャーがはじまります

令和7年3月にグランドオープン予定の海の森公園で、インタープリターとして活動予定の“子供レンジャー”達におき、令和6年4月より約1年かけて研修プログラムを行っていきます。そのためのキックオフイベントとなる開講式を海の森公園で3月16日に行いました。

子供レンジャーは小学2年生から中学2年生までの全94名。当日は85名の子供達と保護者の方々に集まっていたいただき、これから活動していく海の森についてのレクチャーとフィールド散策を行いました。ほぼ初対面の子供達でしたが、フィールド散策では、早速みんなで多くのいきものを見つけ、自然と触れあいながら過ごしてもらえました。

1年後の研修を終えた子供達が今後どのように海の森の姿を伝えていってくれるのか今からとても楽しみです。



ユニソルの森づくり 除幕式



清泉女子大学の学校林



「みどりうむアクション」ホームページより

「みどりうむアクション」のイベント

TOPICS 4 企業の森づくり活動

企業の社会貢献活動として、企業の森づくり活動が活発になってきました。2023年度は、2つの森づくりの準備と立ち上げを進め、これから本格的な整備活動が始まります。

・清泉女子大学の学校林整備活動

品川区にある清泉女子大学で、ENEOSホールディングス株式会社の環境系社会貢献活動「みどりうむアクションproduced by ENEOS」の第1号として整備活動が始まりました。当協会がその整備活動にかかわることになりました。3月16日には、オープニングのイベントが行われ、参加者のみなさんに学校林の奥庭でネイチャーゲームやクラフトを楽しんでもらいました。

・ユニソルの森づくり活動

フルサト・マルカホールディングス株式会社による、企業の森づくりが兵庫県宝塚市西谷の森公園で始まります。秋頃から活動場所であるフィールドの検討を開始し、兵庫県とともに手続きを進めてきました。4月9日にその除幕式が行われました。今後、毎月社員のみなさんがここで整備活動を行い、当協会がその指導役を担います。



TOPICS 5 まちだみどり活用ネットワーク

4月より町田市と会員とが連携して、まちだの“みどり”を活用し、さまざまな活動に取り組む当ネットワークの事務局業務がスタートしました。初年度である23年度は会のパンフレットやホームページ等の周知資料の作成などの広報業務や会員管理業務、各実行委員会の支援業務等を担いました。

・ずしまちいちの開催(23年7月)

地域の人にも認知度の低い公園が実はとても魅力的なみどりの空間があることを知ってもらい、日常的に利用されていくことを目的に、“ずしまちいち”を開催しました。地元野菜等を販売するマルシェやキッチンカー、公園の自然を楽しむ自然体験など多彩な出店者と来場者が一体となって心地よい初夏の一日を味わいました。

・ミツバチ&生きものワークショップの実施(23年10月)

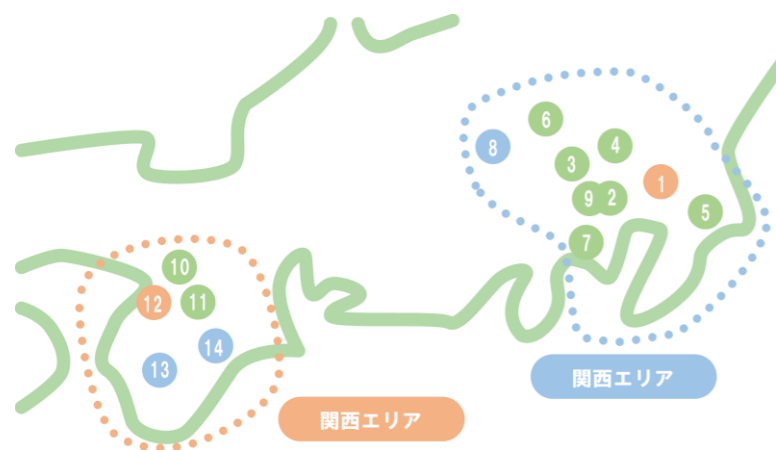
大谷里山農園にて、里山の自然観察とミツバチの巣箱づくりのワークショップを実施。家族連れなどの参加者と共に、神秘的なニホンミツバチの生態や水辺の生き物に親しむことができました。



フィールド事業



14箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



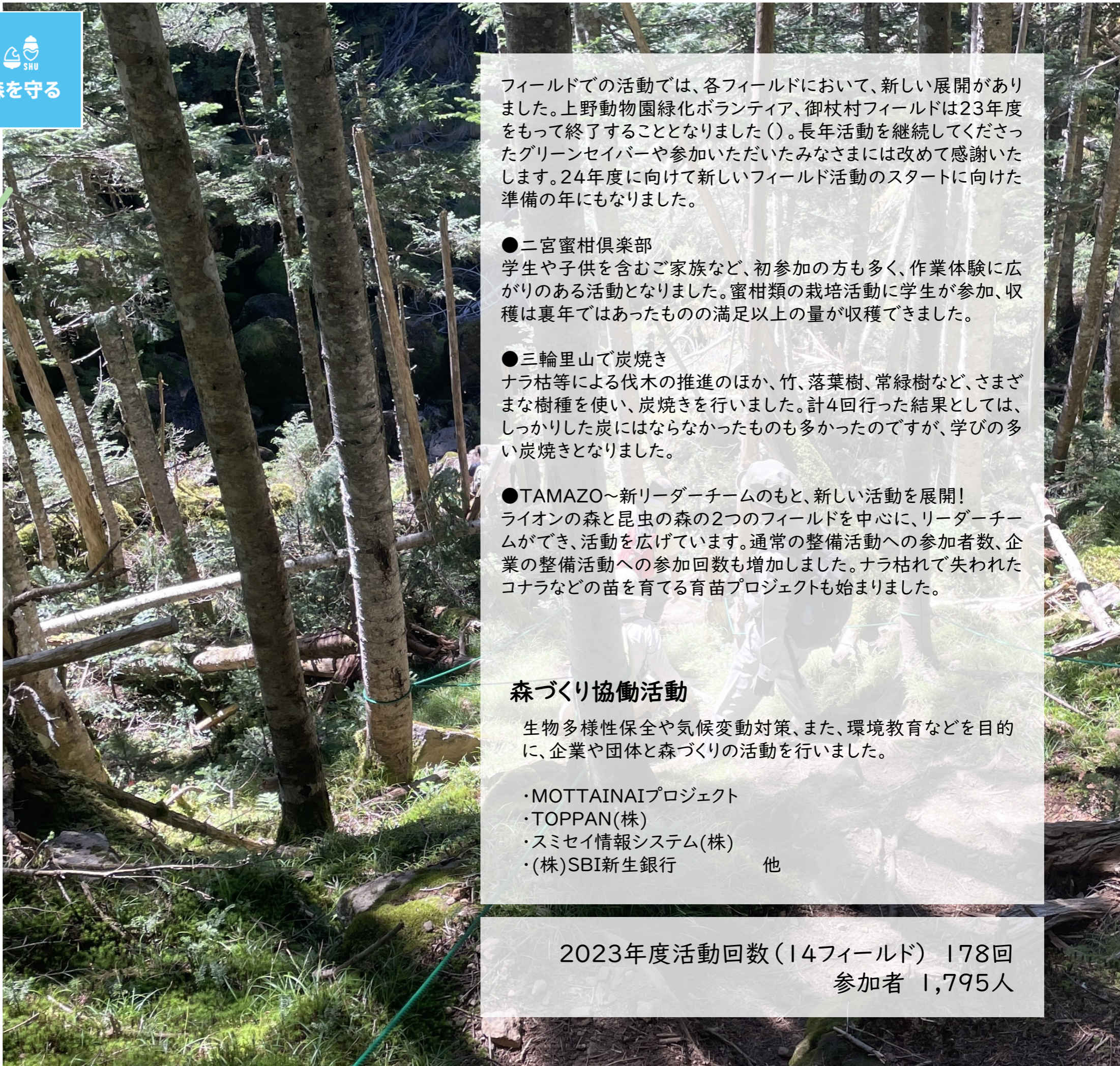
- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

関東エリア

- 1.上野動物園 緑化ボランティア ※
- 2.町田・三輪里山フィールド
- 3.多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 4.武蔵野の森から学ぼう
- 5.千葉おぐらの森
- 6.嵐山ふれあいの森
- 7.二宮蜜柑倶楽部
- 8.ハヶ岳ワーキング
- 9.本町田宿ふるさとの森

関西エリア

- 10.交野森フィールド
- 11.奄山ふれあいの森
- 12.レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 13.御杖村フォールド ※
- 14.和歌山ワーキング



フィールドでの活動では、各フィールドにおいて、新しい展開がありました。上野動物園緑化ボランティア、御杖村フィールドは23年度をもって終了することとなりました()。長年活動を継続していただいたグリーンセイバーや参加いただいたみなさまには改めて感謝いたします。24年度に向けて新しいフィールド活動のスタートに向けた準備の年にもなりました。

●二宮蜜柑倶楽部
学生や子供を含むご家族など、初参加の方も多く、作業体験に広がりのある活動となりました。蜜柑類の栽培活動に学生が参加、収穫は裏年ではあったものの満足以上の量が収穫できました。

●三輪里山で炭焼き
ナラ枯等による伐木の推進のほか、竹、落葉樹、常緑樹など、さまざまな樹種を使い、炭焼きを行いました。計4回行った結果としては、しっかりした炭にはならなかったものも多かったのですが、学びの多い炭焼きとなりました。

●TAMAZO～新リーダーチームのもと、新しい活動を展開！
ライオンの森と昆虫の森の2つのフィールドを中心に、リーダーチームができ、活動を広げています。通常の整備活動への参加者数、企業の整備活動への参加回数も増加しました。ナラ枯れて失われたコナラなどの苗を育てる育苗プロジェクトも始まりました。

森づくり協働活動

生物多様性保全や気候変動対策、また、環境教育などを目的に、企業や団体と森づくりの活動を行いました。

- ・MOTTAINAIプロジェクト
- ・TOPPAN(株)
- ・スミセイ情報システム(株)
- ・(株)SBI新生銀行 他

2023年度活動回数(14フィールド) 178回
参加者 1,795人

グリーンセイバー事業



グリーンセイバー資格検定～ CBT方式を導入

2023年度より、ネイチャー・カルチャーの検定試験を全国どこからでも受検可能CBT方式で実施しました。受検者数が増えると思いましたが、逆に約半分と、大幅に減少してしまうという結果になりました。受検者の地域分布は首都圏に集中しているという傾向があり、CBT方式のメリットが活かしきれず、広報や周知のあり方に課題が残りました。また、決まった日時に限って受検を行うという方式も見直しが必要となりました。

グリーンセイバーセミナー

検定受験準備のためのグリーンセイバーセミナーは、コロナ以降、オンライン方式で実施してきましたが、2023年度は、オンラインセミナーの録画を使って実施しました。一方、実地で学ぶことで理解が深まる内容について、野外でのセミナーをネイチャー、カルチャーで1日ずつ実施しました。

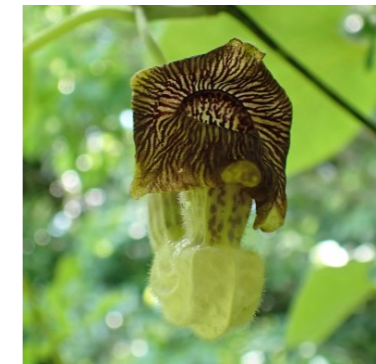
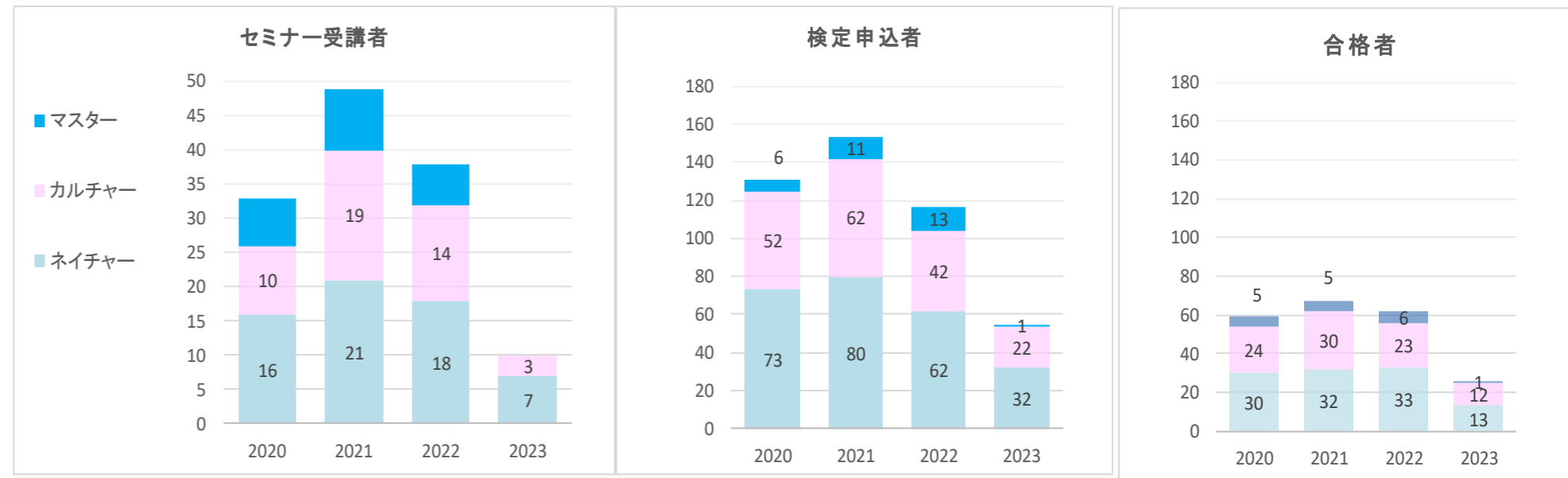
グリーンセイバー企画

グリーンセイバーによる企画イベントであるグリーンセイバー企画と、企画までのノウハウを学ぶグリーンセイバーゼミが実施されました。

- これからはじめる自然観察
自然に興味はあって、もっと知るために一歩踏み出したいという方向けの気楽に参加できる観察会。
- 自然と親しむ講座
自然に関する知識やノウハウをもう少し深く学びたい、ステップアップしたい方向けの講座的プログラム。
- 子どもわくわくプロジェクト
青少年を対象とした自然の不思議や魅力を五感で楽しむ自然体験プログラム。
- GSキッズ
子ども対象の自然体験プログラム。3回シリーズで実施しました。

GS研修

愛知研修など、グリーンセイバーによる自主的な学習の企画が実施されました。



環境 コミュニケーション事業



多様な団体・企業・行政のみならずと協働し、多くの活動を実施することができました。

- 【環境イベントの協働実施等】 23件
 - 【森づくり関連】 2件
 - 【研修や授業の実施】 9件
 - 【所有緑地の管理・活用】 1件
 - 【オンライン研修等】 2件
- 【環境ツールの制作、企画展示】 1件

参加者 約1,577名(累計)
※不特定多数はカウントしていない

実施にあたり関わった指導者(累計)
GS 78名 / 一般・外部講師その他82名

協働した環境教育の実施

・KDDI(株)(小学校4校 210名)
ICT教育と身近な自然を発見し学ぶ学習をKDDIと協働して実施しました。

・桜川中学校(109名 2回)
中学校の総合学習の時間で、里山とボランティアの体験を行う授業を行いました。事前授業の学校でのワークショップと嵐山ふれあいの森での森林保全作業を行いました。

・JALスカラシッププログラムの実施
日本環境教育フォーラムとJAL財団が運営する「JALスカラシッププログラム」は、海外留学生が環境について体験を通じて学ぶことを提供しており、23年は町田・三輪里山で里山の整備体験を行いました。

・学校法人東京シューレ学園
学校での木の授業の実施。不登校の生徒を受け入れているシューレの運営している学校において、木の授業を実施しました。

他団体との協働イベント

・森林と市民を結ぶ全国の集い
全国の森づくりボランティアの情報交流を兼ねたシンポジウムです。実行委員として参画し、分科会等の運営を行いました。全国から参加できるようにオンラインでの開催となりました。今回のセミナーでは“森林コモンズ”がテーマで、さまざまな角度からの話題提供がありました。

・環境教育関東ミーティング
毎年行っている環境教育関東ミーティングは、関東周辺の環境教育を実践している団体や個人の交流・情報交換の場です。千葉に場所を移して実施し、今回はコロナ禍以降はじめての宿泊型でのミーティングとなりました。

・活樹祭～親子森林教室
ローソンと協働したプログラム。母子家庭の親子を対象に森づくりや野外活動の体験を行いました。

企業の森づくり活動

企業の社会貢献活動として、企業の森づくり活動が活発になってきました。

・清泉女子大学の学校林整備活動
品川区にある清泉女子大学で、ENEOSホールディングス株式会社の環境系社会貢献活動「みどりうむアクション produced by ENEOS」の第1号として整備活動が始まりました。当協会がその整備活動にかかわります。3月には、オープニングのイベントが行われ、記念の植樹やネイチャーゲームやクラフトづくりを実施しました。

・ユニソルの森づくり活動
フルサト・マルカホールディングス株式会社による、企業の森づくりが兵庫県宝塚市西谷の森公園で始まります。4月にその除幕式が行われました。今後、毎月社員のみなさんがここで整備活動を行い、当協会がその指導役を担います。

緑地の生物調査

自治体の5か所の緑地において、生物調査を実施しました。植物、鳥類、昆虫の項目について、各生物項目に必要な季節で実施しました。その結果は、今後の緑地の管理方針を検討するための基礎資料になります。

学生インターンの受入れ

SOMPO環境財団、DotJPによる学生インターンの受入れを行っています。インターンのみなさんには、ブログをはじめ様々な活動に参加してもらいました。



清泉女子大学でのオープニングイベント



ユニソルの森 除幕式



生物調査



エゴヒゲナガゾウムシ

行政との 協働・委託事業

取
組
森と人を繋ぐ

海の森公園【東京都】

●海の森公園ボランティア

23年度も引き続き海の森公園ボランティアのコーディネート事業を受託することができました。海の森公園は当会で長年関わってきた森づくりの場です。本年は54名のボランティアが登録更新し、樹林地の整備や苗圃での草花の種まきなどのボランティア活動をおこないました。

また、研修の企画運営を行い、インタープリテーション研修(計5回実施)では、ボランティアの方々が海の森公園の来場者に対して海の森の魅力を上手に伝えるスキルの向上を図りました。

●海の森子供レンジャー

令和7年3月にグランドオープン予定の海の森公園で、インタープリターとして活動予定の“子供レンジャー”達が令和6年4月より約1年かけて研修プログラムを行うものです。そのためのキックオフイベントとなる開講式を、春の海の森まつりの初日である3月16日に行いました。

子供レンジャーは小学2年生から中学2年生までの全94名。開校式では85名の子供達と保護者の方々に集まっていただき、これから活動していく海の森についてのレクチャーとフィールド散策を行いました。ほぼ初対面の子供達でしたが、フィールド散策では、たくさんのいきものをみつけ、自然と触れあいながら過ごしました。

まちだみどり活用ネットワーク【町田市】

里山、農地、公園など、さまざまなみどりが町田市にはたくさんあり、それらを活用した活動を活性化させ、各団体が抱える課題解決につなげたり、活動を通じて豊かな緑を残していく。そして、町田市の魅力向上につなげることを目指す組織として、「まちだみどり活用プラットフォーム」が設立されました。町田市内のさまざまな緑に関わる活動をしている団体が集まり、それぞれの得意分野を活かし、さまざまな活動を展開していく予定です。

当会では、プラットフォームのバックオフィスを担う事務局業務を担っています。特に23年度ではプラットフォームの基盤となる情報インフラや活動のツール制作を中心に、ネットワークの活動の推進をしてまいりました。

主な活動(イベント)

- ・ずしまちいち(図師日影坂下公園)
- ・ミツバチワークショップ(大谷里山農園)

埼玉県産材を使った木製品の制作【越谷市】

越谷市では“森林環境譲与税”を活用した、埼玉県産材の有効活用に取り組んでいます。当協会は、SDGsピンバッジ、木製盾の制作を受託し、嵐山ふれあいの森で産出された杉材を使い制作することで、この取組を後押ししました。



多角的な情報発信

ホームページ、聚レター、パンフレット、メルマガ、各種SNS等で情報発信を継続。団体としての基本情報と参加者募集や活動実施報告などはリアルタイムで更新できるHPやSNSで、活動の意義や新たな方向性、これからの活動を考える上でのより深い学びなどは、じっくり読んでいただけるよう聚レターで、といったように、内容によって媒体を使い分け、トータルで当協会の活動について理解していただけるような情報発信を目指しました。

HPについては、リニューアルから5年がたち、情報の整理が課題となっていました。まずグリーンセイバー検定のページを先行リニューアル。24年度にはCBT方式での実施が2年目を迎えるに先立ち、よりわかりやすいサイト構成と情報へのアクセスのしやすさを心がけました。

企画展示「暮らしの中で自然とつながる99の方法」を実施

この企画展示は、普段暮らしの中で自然を感じ、自然とつながるためのアイデアを様々な形でご紹介するもので、2013年に「丸の内さえずり館」(東京都千代田区、現在は閉館)で実施して以来、施設ごとにアレンジを加えて実施してきました。今回は「練馬区立春日町リサイクルセンター」の依頼で、来訪者に身近な自然と暮らしとの関りを楽しみながら学んでいただけるよう、実物も多く展示し、ご好評をいただきました。

「J-クレジット」を学ぶ

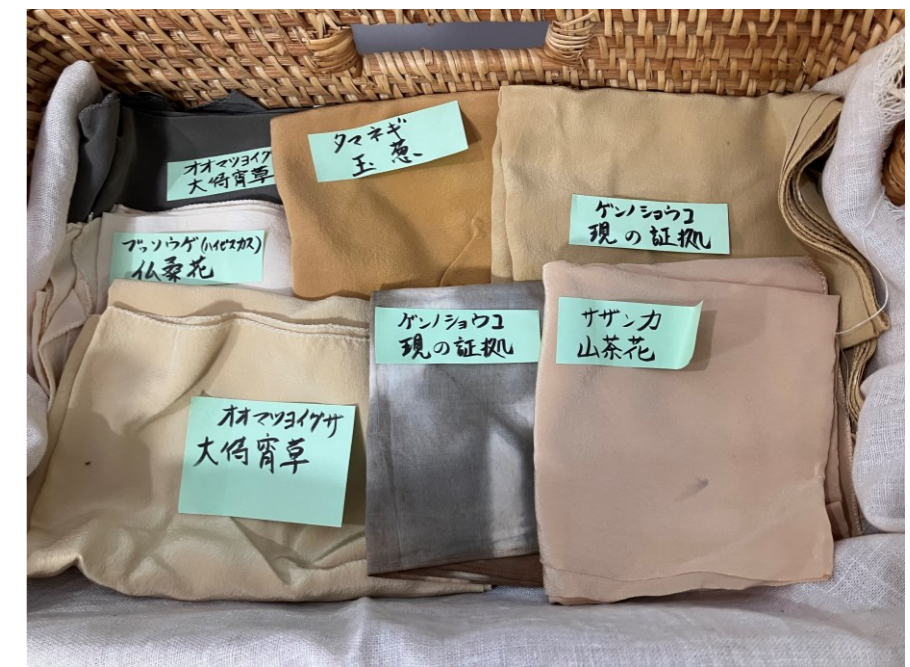
2023年12月1日に実施した「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」では、当協会理事でつくば林業代表の松浦晃さんにJ-クレジット(温室効果ガスの排出権取引制度)についての講演をお願いし、これをベースとした意見交換をおこないました。ご自身でもJ-クレジットを活用したプロジェクトを進めている松浦さんから、当協会の活動に活用できるのではないかとご提案をいただき、今後も勉強や検討を進めていく予定です。講演概要はHPのパートナーズ・ボイス・プロジェクトのページでもご覧いただけます。



「2つのガラパゴス」が完結

清水善和理事長が“東洋のガラパゴス”小笠原とガラパゴスを比較しながら、自然の特徴や自然保護の取り組みなどを紹介するコラム「2つのガラパゴス」が完結しました。

メルマガでの連載に書き下ろしを加えた全73回を専用ブログで公開しています。ぜひご覧ください。

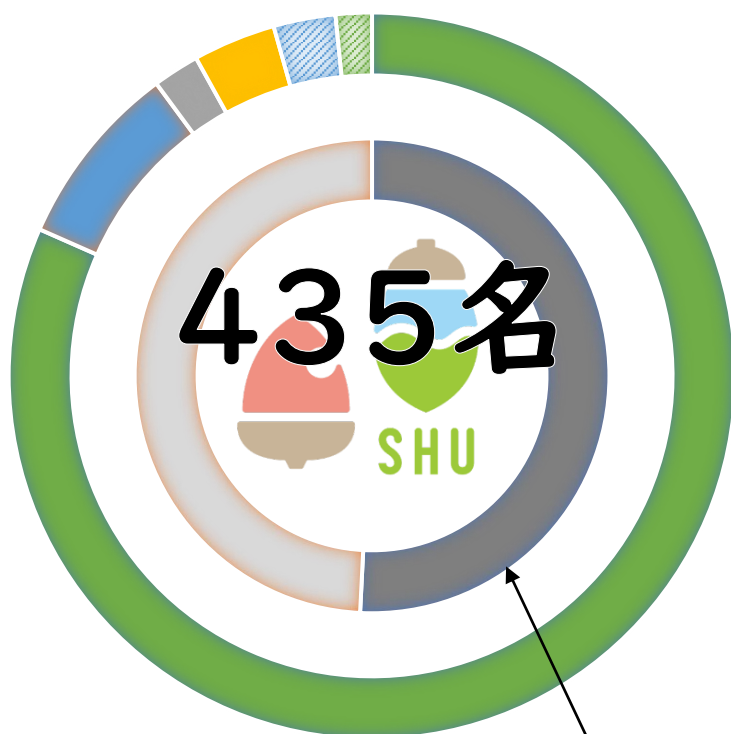


聚レター168号についてお詫びとご報告

2024年3月20日に発行した会報誌「聚レター168号」において不適切なページがあったことがわかり、関係者と協議の結果、回収にご協力いただくこととなりました。掲載によりご迷惑をおかけした方々に、あらためて深くお詫び申し上げます。また編集にご協力いただいた方々に対しては、もたいへん心苦しい結果となり、心よりお詫び申し上げます。今後はこのようなことがないよう、チェックおよび確認体制を強化、徹底してまいります。

なお168号については、該当ページを削除した電子版をHPで公開しています。J-クレジットについての特集など、有用な情報を掲載しておりますので、ご活用いただくと幸いです。





正会員 (計416名・団体)

個人会員	355名
家族会員	36名
団体会員	9団体
法人会員	16社

準会員 (計19名)

賛助会員	12名
ユース会員	7名

入会 20名 退会31名

GS登録 51%
(221名)

23年度は退会される方が上回り、会員数として、若干減少傾向となりました。要因は定かではありませんが、グリーンセイバー資格検定の受験者の減少が大きく起因している可能性もあります。活動自体は活発になってきているため、今後会員獲得に向けた努力が必要です。

法人会員

株式会社アテナ

株式会社エスパシオ

NECネットエスアイ株式会社

株式会社SBI新生銀行

株式会社昭栄

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

大和不動産鑑定株式会社

株式会社高橋総本店

東京ガス不動産株式会社

東京シティライオンズクラブ

凸版印刷株式会社

株式会社ナカムラ・コーポレーション

株式会社美交工業

株式会社ひむか造園土木

株式会社ユーエム工業

株式会社ローソン

株式会社KSK

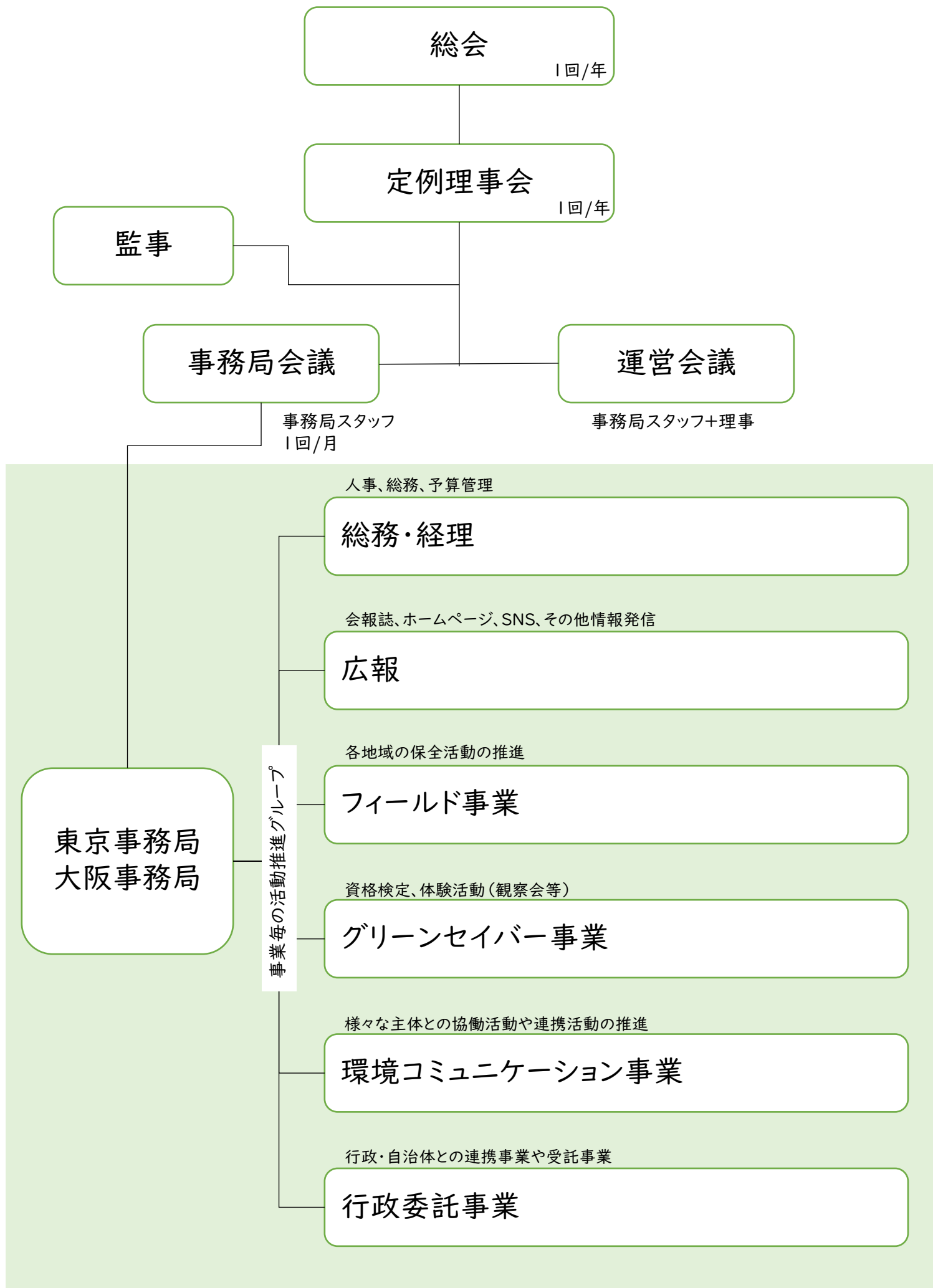
【顧問】山本 光二	樹医
【顧問】澁澤 寿一	前理事長
【理事長】清水 善和	駒澤大学総合教育研究部元教授
【専務理事】佐藤(中西) 由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】小久保 広宣	関西聚スタッフ
【理事】渡辺 順彦	株式会社アテナ 取締役会長
【理事】岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】片山 雅男	神戸教育短期大学児童教育学科元教授
【理事】川端 自人	グリーンセイバー・マスター
【理事】小林 健人	NPOフュージョン長池 理事
【理事】後藤 洋一	事務局長
【理事】塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】広瀬 攻	三輪里山フィールドリーダー
【理事】松浦 晃	株式会社 つくば林業
【監事】三尾 隆志	公認会計士
【監事】吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事	中西 由美子
理事・事務局長	後藤 洋一
スタッフ(東京)	石崎 庸子
スタッフ(東京)	加藤 武
スタッフ(東京)	中西 規章
スタッフ(東京)	大西 智野子
スタッフ(東京)	小口 純子
スタッフ(東京)	松尾 茉里子
スタッフ(東京)	田島 泰子
スタッフ(大阪)	山本 睦子



NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 運営・組織図



2023年度 財務報告

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

収支・成果報告

発生費用の部: 活動のためにかかった費用		非営利活動	
		2022年度	2023年度
事業費	総務・管理	¥3,761,070	¥4,159,768
	広報	¥3,166,193	¥3,230,658
	グリーンセイバー事業	¥2,756,893	¥1,752,977
	フィールド活動事業	¥3,010,286	¥4,819,445
	環境コミュニケーション事業	¥2,695,178	¥4,658,913
	行政委託事業	¥7,006,074	¥12,837,197
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000
棚卸高	期首商品棚卸高		
	期末商品棚卸高		
発生費用合計		¥22,545,694	¥31,608,958

費用負担の部: その費用は以下のように負担しました。		非営利活動	
		2022年度	2023年度
受取会費	会費負担分	¥3,074,500	¥2,925,000
受取寄付金		¥10,700,390	¥8,840,301
受取助成金		¥47,000	¥150,000
事業費収入	グリーンセイバー事業	¥2,187,246	¥1,488,411
	フィールド活動事業	¥2,477,684	¥5,925,668
	環境コミュニケーション事業	¥3,881,225	¥4,671,018
	行政委託事業	¥7,289,150	¥14,036,130
事業外収入	雑収益・受取利息	¥53	¥62
費用負担額合計		¥29,657,248	¥38,036,590
当期正味財産増減額		¥7,111,554	¥6,427,632

貸借対照表

(単位 :円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	25,618	未払金	4,565,365
普通預金	6,671,394	前受金	1,850,000
郵便振替口座	410,890	預り金	81,553
未収金	17,672,196	仮受金	274,887
仮払金	182,600	流動負債合計	6,771,805
前払費用	162,800	2 固定負債	0
流動資産合計	25,125,498	負債合計	6,771,805
2 固定資産		III 正味財産の部	
有形固定資産		前期繰越正味財産	12,355,262
車両・運搬具	453,600	当期正味財産増減額	6,427,632
減価償却累計額	△453,599	正味財産合計	18,782,894
有形固定資産合計	1		
無形固定資産			
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,201		
固定資産計	429,201		
資産の部合計	25,554,699	負債・正味財産の部合計	25,554,699

寄付・助成金

寄付 助成金

SDGsの達成に向け、気候変動対策や生物多様性保全是ますます重要になっています。社会的な関心も大きくなってきています。活動が継続的かつ円滑に進むよう、ご寄付は大切に活用させていただきます。

ご支援いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2023年度の寄付および助成金等の実績は以下のとおり

●寄付

個人の寄付

30件

合計121,000円

法人・団体の寄付

- ・KDDI(株)
- ・FITチャリティーラン実行委員会
- ・(株) Salad (GREEN PARKマラソン)
- ・(株) ジャックス
- ・(株) アテナ
- ・積水化学工業(株)

他6件

12件

合計7,467,561円

寄付プログラム

- ・朝日ライフセットマネジメント「あすのはね」
- ・KDDI「キボウのカケハシ」
- ・SoftBank「つながる募金」
- ・ボードレスジャパン「ハチドリ電力」
- ・(株)リコージャパン

5件

合計1,251,740円

●助成金

- ・五洋建設(株) (海の森協賛金)
- ・埼玉県みどりの活動支援金(嵐山)

1件

合計150,000円

個人情報保護の観点から個人名の記載は控えております。あらかじめご了承ください。

監査報告書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2024年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内容
を適切に反映していると認めます。


2024年4月5日

特定非営利活動法人

樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志 

三尾隆志

監事 吉田寛 

吉田寛



団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会

設立 1995年9月19日

ホームページ <https://www.shu.or.jp/>



○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6

日本分譲住宅会館ビル8階南

[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448

[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号

[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247

[Mail] kansai.syul@nifty.com

[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>